

来て!見て!知って!文化財

いた いし とう ぼ ぜん こう じ しき さん ぞん ぞう
板石塔婆(善光寺式三尊像)
 善光寺と妻沼をつなぐ文化財 妻沼1629

現在、妻沼歓喜院本坊の門前に所在している「板石塔婆(善光寺式三尊像)」は、昭和30年(1955)頃に、妻沼小学校の校庭から移設され、自然石の上に建てられています。昭和40年(1965)に、県の有形文化財(考古資料)に指定されました。石質は緑泥片岩りょくでい ぺん がんであり、規模は高さ178cm、幅59cm、厚さ12.5cmです。上部は通常の板石塔婆と異なり山型ではなく水平の形状となっています。表面には深く光背が彫り込まれ、蓮台に乗った阿弥陀三尊像が彫られています。主尊の阿弥陀像あみだは高さ40cm、脇侍の観音菩薩くわんおんと勢至菩薩せしは共に高さ30cmけぶつであり、主尊の頭から発せられる光には七体の化仏けぶつ(小さな仏像)が表現されています。製作年代については銘文等が摩耗しており不明ですが、いわゆる善光寺式の阿弥陀三尊像の形式から鎌倉時代の中頃と推定されます。

なお、この善光寺式と呼ばれる分類は、信州善光寺の秘仏本尊を模した阿弥陀三尊像を主題とした彫刻であることに由縁があります。その特徴としては、全体を舟形の光背が覆っている構図や、三尊が立像となっていること、阿弥陀如来が「刀印」(下げた左手の人差し指と中指を伸ばし、他の指を曲げる)と称される独特の印相いん そう(両手の型)を示している点などが挙げられます。妻沼地域には、その他に能護寺に安置されている市指定文化財「板石塔婆」など、善光寺式三尊像を表した板石塔婆が比較的集中して所在しており、その理由や歴史的背景については謎に包まれています。(山下祐樹)



◆江南文化財センター ☎048-536-5062